

第5学年 総合的な学習の時間学習指導案

児童数 43名

指導者 犀川 雄創

堀内 桜寧

1 単元名 育てよう、命を守る力 ～私の防災ストーリー～

2 単元について

令和6年1月1日に発生した能登半島地震では震度7が観測され、「地震が少ない県」とされてきた富山県においても、地震災害のリスクが現実のものとして認識されるようになった。さらに同年8月には、「南海トラフ地震臨時情報」が発令された。富山県内には、大きな地震を引き起こす活断層も存在しており、決して「安全な地域」とは言い切れない。このような状況を踏まえると、災害に備え、正しい知識や行動を身に付けることは、自分自身や大切な人々の命、そして未来を守るために欠かせないことである。防災についての学びは、単なる知識の習得にとどまらず、自己決定・自己選択を繰り返しながら主体的に行動する力を育むという、自啓教育の本質にも深く関わる学習である。

本校の5年生は、「はばたき（総合的な学習の時間）」が大好きで、意欲的に取り組むことができる。昨年度は、「福光エコ守り隊」として地域の環境を守る活動に取り組んできた。特に、校区内の河川でのフィールドワーク、水質調査、ごみ拾い、ポスターの作成、地域への呼びかけといった体験的な活動を通して、子供たちは「行動することの大切さ」や「学びを社会に生かす喜び」を味わってきた。これらを通して、「自分たちも地域の一員として力になっている」という実感を持ち、学ぶことの楽しさや意義を感じてきた。

昨年の能登半島地震では、実際に震度5弱の揺れを体感し、災害に対する関心も高まった。しかし、これまでの避難訓練や教科学習を通して災害に関する知識は得ているものの、災害を「命の危機」として自分事として捉え、行動に移す段階には至っていない子供が多いのが現状である。また、仲間と協働する力は育っているものの、自分で学習を計画し、学びを主体的に進める経験が乏しく、「自ら学ぶ子供の姿」にはまだ十分には届いていない。自分の思いや願いを出発点にして「こうしたい」「もっと知りたい」といった気持ちを形にし、学びを進めていく力を育てていきたいと考えている。

そこで本単元では、「自分の命は自分で守る」という防災の根幹となる意識を出発点に、子供一人一人が願いや問いを持ち、自分でテーマを選んで探究的に学びを進めることを目指す。災害の種類や備えについて調べたり、避難行動を実際に試したりする活動を通して、「自助」の重要性を体感的に学ぶ。また、個々の追究を中心としながら、必要に応じて聴き合う場を設け、異なる視点に触れたり、自らの考えを深めたりする場を保障する。さらに、四季防災館への校外学習や震災体験者の講話など、体験的な学びを通して、学びに向かって自分事として迫れるようにしていく。加えて、災害に対する「恐れ」「不安」「助けたい」といった感情にも丁寧に向き合い、それを言語化していくことを追究の原動力とし、学びへの主体性を高めていく。最終的には、自らの変化や学びを振り返り、自分の成長を物語としてまとめる。総合的な学びのよさや本質を実感し、今後の未来に向けて自分がどのように生きたいかを考えられるようにしていく。

3 単元の目標

災害に対する不安や疑問、願いを出発点として、一人一人が防災に関する課題を見付け、追究的に学ぶ中で「自分の命を守る力」を身に付けるとともに、災害時に他者と協力し合うことの大切さを考える。体験的な学習を通して具体的な行動や備えを学び、学びを自分の生き方にどう生かすかを振り返りながら、思いや願いをもって主体的に行動できる力を育てる。

4 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元 の 評 価 基 準	① 日本や富山県で想定されている災害の種類や発生の可能性について理解している。 ② 災害が発生したときの身の守り方や避難の方法について、場面に応じた対応を理解している。 ③ 災害による被害を減らすための備えや行動について、資料を基に調べたり実行したりしている。 ④ 避難生活の工夫や助け合いの重要性について、具体的な事例を基に理解している。	① 災害について自分が追究したい課題を設定し、解決の見通しをもって計画的に活動している。 ② 協働的な学習を通して友達のを考えを取り入れ、自分の考えを広げたり深めたりしている。 ③ 災害に関する多様な情報を分類・整理し、必要に応じて自分の活動に適切に活用したり、表現したりしている。 ④ 一人学習を通して得た知識や考えを自分なりにまとめ、根拠をもって適切な方法で表現している。	① 自分の意思をもって課題の解決に取り組み、必要に応じて友達と協力しながら学習を進めている。 ② 一人学習を通して活動の意義や役割を自覚し、責任をもって学習に取り組んでいる。 ③ 友達の活動や考えを認め、柔軟に取り入れながら、自分の活動を見直し、試行錯誤して取り組んでいる。 ④ 自分も未来を生きる一員であるという自覚をもち、防災意識を高めながら、学習を自分の生き方に結び付けようとしている。

5 研究主題との関連

研究主題 思いや願いを明らかにして、主体的に並ぶ子供の育成
～ 追究意欲を高める授業実践を通して ～

視点1 主体的な学びにするための工夫

(1) 主体的に学ぶための単元計画の工夫

・「もし、今災害が起きたら？」という導入場面での疑似避難の体験的活動

単元の導入時に、疑似的に緊急地震速報を流して避難行動を体験し、その際の様子をビデオで記録する。そして、記録映像を基に自分の行動を振り返る時間を設ける。その中で、子供は「不安」「驚き」「戸惑い」などの感情を言語化し、自分の命を守る力がどの程度備わっているかに気付くことができるようにする。この体験を通して、「このままでは自分の命を守れない」「災害が起きた時、自分はどうすればよいだろう」という切実な問いが生まれ、主体的な追究への出発点になると考える。

・レーダーチャートによる見通しと目標の明確化

子供が主体的に学ぶには、導入時に「何を学ぶのか」「自分はどんな力を育てたいのか」を明確にすることが重要である。そこで「命を守る力」に関わる複数の視点（判断力・備える力・行動力・思考力・助け合う力等）から、現在の自分の状態を振り返り、レーダーチャートで数値化・可視化する時間を設ける。このチャートによって、自分の力のバランスを視覚的に把握でき、育てたい力やその理由を自覚しながら、今後の学習に対する具体的な見通しをもつことができる。

終末には、同じレーダーチャートに「学習後の自分の力」を記入し、「前と比べて、自分はこの力が育った」「やり切った」という成長の実感と達成感を得られるようにする。

(2) 子供が自己選択・自己決定し、自己調整しながら粘り強く学ぶことができる学習環境の工夫

・子供の思いや願い、疑問を主体的な学びにつなげる「こんなことができますか」掲示板

子供が主体的に学ぶための原動力は、「やってみたい」「面白そうだ」という思いが具体的にイメージされ、それができる見通しをもてたときに高まると考える。そこで本実践では、子供が「こんなことをしてみたい」「これを調べてみたい」といった思いや願いを自由に書ける「こんなことができますかカード」を準備し、フロア内に掲示する。教師はカードを通して一人一人の内面にある思いや問いを把握し、それに寄り添って資料提供や助言を行い、個々に応じた支援をする。また、掲示されているものを見合うことによって、「やってみたいことを言っているんだ」「自分で決めていいんだ」という雰囲気教室内に広がり、子供は安心して追究に踏み出せると考える。

(3) 子供の見取りを重点に置いた一人学びの支援の工夫

・個々の追究を見取り、必要な支援に備える「追究記録シート」の活用

個の追究を充実させるために、一人一人の学習状況を教師が丁寧に把握し、適切な支援を行うことが重要である。また、T・Tで学習を支援する場面では、子供の追究状況や、必要な支援について教師間で共有することが重要になる。そこで、子供の活動の様子や振り返りの記述から、その日の追究状況を教師が簡潔に記録し、「追究記録シート」として蓄積・共有する。このシートには、子供の取組の様子、抱いた思いや願い、支援したこと等を簡潔に記述し、どの教師が見ても、子供の現在地と必要な支援が分かるようすることで、より効果的で継続的な一人学びの支援が可能となる。

(4) 子供が自己の学びをメタ認知したり、自分の成長を感じたりする振り返りの場の工夫

・自分の成長を「防災ストーリー」としてまとめる振り返りの工夫

本実践で得た学びを自分のものとして定着させ、今後の生き方に生かすためには、学習が自分にとって意味のある経験であったと実感して振り返ることが大切である。そこで単元の最後に、これまでの学びを「私の防災ストーリー」としてまとめる。自分を主人公に、一つの物語のように、学びの過程や気持ちの変化を振り返る活動を通して、どんな問いをもち、どんなことに挑戦し、考え方や行動がどう変わったのかを、心の動きとともにたどる。単なる事実の列挙ではなく、「なぜそれをしようと思ったのか」「何がきっかけで気持ちが変わったのか」といった内面的な気付きや変容を文章として綴る。このように、学びの終末を「まとめ」ではなく、「自らの経験と成長を物語として書く振り返り（語り）」とすることで、子供は自分がこの学習の主人公であったことを実感し、学びの価値を自分自身の成長として受け止め、これからの生き方を考えるきっかけとすることができる。

視点2 協働的な学びにするための工夫

(1) 子供にとって必要感のある対話や共同的な学びを単元計画や授業展開に位置付ける工夫

・互いに協働的に学び合うことのできる活動時間の保障

個人の追究に夢中になると、子供の関心は自分の課題に集中し、他者に目を向ける余裕がなくなる可能性がある。しかし、一人の学びを基盤としながらも、協働的な学びの中で新たな視点や刺激を得ることで、追究が更に深まる場合もある。そこで、子供が十分に自分の追究に没頭できる時間を保障した上で、その中に意識的に余白の時間を設定し、他者の学びに触れる機会を生み出すことを大切にする。こうしたゆとりがあることで、他者に関心を寄せる余裕を生み、結果的に協働の価値に気付くことができるようにしたい。

(2) 子供が互いの考えや取組の姿勢に学ぶ聴き合いの場の工夫

・互いの追究を聞き合う場の設定

追究は一人で進めるが、定期的に互いの学びを聴き合い、称賛やアドバイスをし合う時間を設ける。友達の課題意識や視点に触れることで、自分にはなかった考えに気付いたり、視野を広げたりできる。自分の追究に夢中になると、他者の学びが見えにくいのが、共有し合う場があることで、「自分の追究を知ってほしい」という思いが生まれる。友達からの質問や称賛の言葉は、自分の追究を更に強くし、次の一步を踏み出す大きな力になると考える。

・他者の考えや取組から学ぶ力を育てる学習環境の工夫

子供が主体的に学び続けるために、自分の追究に集中できる環境や、他者との関わりの中で、学び直したり、新たな視点を得たりする場が必要である。そこで本実践では、子供同士が自然に声をかけ合ったり、助け合ったりできるように、「相談コーナー」や「こんなことしませんかコーナー」、「みてみてコーナー」等、教室内に相談するスペースや自分の追究の協力を依頼する掲示板を設置する。

これらのコーナーを活用しながら、個別に追究を進める中で自分とは異なる視点や行動に触れ、振り返りや掲示物を通して他者のよさや課題解決の方法に気付けるようにする。

(3) 子供が「一人学び」で考えたことや学んだことを分かりやすくまとめ、他者へ表現する工夫

・これまでの学びを聴き合いに生かす掲示の工夫

協働的な学びを生み出すために、子供同士が互いの思いや考えを共有し、共通のイメージや経験を基に語り合える環境を整えることが大切である。そこで本実践では、ゲストティーチャーの講話や校外学習での体験、そのとき子供が感じたことや考えたこと等を記録・整理し、フロア内に掲示しておく。この掲示物は、個人の記録としてだけでなく、「共通のよりどころ」として生かせるようにする。例えば、

聴き合いの際に掲示物を見ながら「あのときの体験の話だね」「〇〇さんが言っていたことを思い出した」と共有することで、子供たちの中に共通のイメージが生まれ、会話が深まりやすくなる。また、相手の思いや経験が目に見える形で示されていることにより、共感が生まれやすくなり、対話が温かく広がっていく効果も期待できる。このように、学びを「個から全体へ」つなげる共有の場を可視化することが、協働的な学びの支えになると考える。

6 指導と評価の計画（全50時間）

次	時間	活動内容	評価規準・評価方法等		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第一次	1 ～ 3	災害を“自分ごと”として考えよう（3） ・災害について知っていることを話し合う。 ・緊急地震速報が流れたとき、どう動いたか話し合う。 ・私たちが暮らす地域はどうか話し合う。	① (ワークシート・発言)		
第二次	4 ～ 10	命を守るために、育てたい力について考えよう（7） ・「命を守る力」とは、どんな力なのか考える。 ・自分が育てたい力を考えたり、根拠を調べたりする。 ・今の自分を見つめ直し、育てたい力について考える。			① (ワークシート・発言)
	11 ～ 13	学習計画を立てよう（3） ・どのように力を育てていくか考え、計画表を作る。 ・作った計画表を友達と見合ったり、学習に必要な物を準備したりする。		① (ワークシート・発言)	
第三次	14 ～ 20	育てたい力を伸ばそう①（7） ① 課題の設定 ② 情報収集 ③ 整理・分析 ④ まとめ・表現 このプロセスを一方向に進めるのではなく、必要に応じて往還しながら、学びを循環させる。	② (ワークシート・発言・行動観察)	② (ワークシート・発言・行動観察)	② (ワークシート・発言・行動観察)
	課外	四季防災館への校外学習（3）社会科			
	21 ～ 43 (本時33時)	育てたい力を伸ばそう②（23） ① 課題の設定 ② 情報収集 ③ 整理・分析 ④ まとめ・表現 仲間と協働しながら追究を進めていくことを認める。 また、必要に応じて聴き合いの場面を入れる。	③ (ワークシート・発言・行動観察)	③ (ワークシート・発言・行動観察)	③ (ワークシート・発言・行動観察)
第四次	44 ～ 50	活動を振り、防災ストーリーにまとめよう（7） ① レーダーチャートに自分の現在の力を書き、自分の成長を振り返る。 ② 自分の気持ちの変化や、考え方の変化、成長のポイントを振り返る。 ③ 物語の内容を考える。	④ (ワークシート・発言・制作物)	④ (ワークシート・発言・制作物)	④ (ワークシート・発言・制作物)
課外	課外	国語科：もう一つの物語（5） 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や、展開を考えることができる。 話や文章の公正や展開、話や文章の種類とその特徴について理解することができる。			

7 本時の学習（33／50時）

（1）ねらい 命を守る力を育てるために、自分の計画を実行し、その成果や課題を振り返って次の学びにつなげることができる。

（2）展開

時配		教師の支援 ◆評価
1	1 前時までの活動を振り返り、今日の課題を確認する。 命を守る力を育てるために、自分の計画を実行し、その成果を振り返ろう。	全体 ・本時に計画している活動の価値や、それによって育てたい力が、明確になるように、必要に応じて問い返したり、ほかの子供にも投げかけたりする。
7	2 今日はどんな力を育てるために、自分が今日は何をするのか紹介し合う。 A 児 僕はこれまで自分の防災バッグづくりに集中してきました。でも本当に必要なものかどうかは、ネットの情報だけでは判断できません。だから今日は、みんなの用意したものと比べてみて、どうしてそれを選んだのかを聞き、もう一度見直したいです。 B 児 今日は3種類のベッドを体験して、寝心地の違いを比べてみたいです。なぜなら、もし被災地で段ボールベッドを使うことになったら、寝心地を知っておくことは大切だと思ったからです。自分でも組み立てられるようにしたいので、友達と協力して、時間を計って組み立てま C 児 私は地震の揺れや前兆、そして水害の恐ろしさについて調べました。そのことを下級生に紹介したいと思っています。今日は5年生のみんなに紹介してアドバイスをもらいたいです。それを生かして分かりやすく一年生に伝えることができるようになりたいです。	全体 ・子供一人一人が最適な学びを実現できるように、調査・体験・相談・話し合いなど、それぞれが自分に合った学びのスタイルを自由に選べる学習環境を整える。 ・子供の活動を見取り、それぞれの追究に応じた言葉かけや支援を行うことができるように、「追究補助シート」を活用し、子供の活動内容や考え、これまでの追究の歩みを把握しておく。 ・どの子にも声かけや、支援が行き届くように、担任間で事前に役割分担をしておく。
30	3 命を守るために自分たちで計画したことを実行する。 今日はアイラップという袋を使った調理を紹介します。調理器具を使わなくても簡単にできることを知ってほしいです。 僕はAさんと防災バッグを見せ合いました。自分のバッグとの違い、懐中電灯が入っていた。夜の避難では、必要だと思った。 段ボールベッドの組み立てをしました。時間を計ったら10分でできました。みんなで協力すると、もっと早くできると分かりまし 土砂災害について調べたことを紹介しました。小矢部川だけでなく、身近な小さな川でも氾濫する可能性があることを伝られました。 今日はBさんの発表を聴きました。私も大事な言葉を短くまとめる工夫を自分のパワーポイントに取り入れてみたいと思いました。 防災に対する備える力の高まり 友達と協働することの良さへの気づき 防災に対する新たな知識の獲得 自分の活動の見直しと新たな目標の設定 命を守る力（知識・備え・協力・思考・判断等）の高まり	個→全体 ・振り返りの場では、「どの活動がどんな力を育てることにつながったのか」を問うことで価値付け、すべての活動に意味があることを実感できるようにする。
7	4 本時の活動を振り返りカードに記入し、紹介し合う。 ・「今日はみんなで防災バッグを見合いました。私の防災バッグには懐中電灯が入っていましたが、友達のバッグにはホイッスルや乾電池があって、自分のバッグに足りないものがあることに気づきました。次は、自分のバッグを見直して入れたいです。」	個→全体 ◆主体的に学習に取り組む態度 友達の活動や考えを認め、柔軟に取り入れながら、自分の活動を見直し、試行錯誤して取り組んでいる。 〈発言、ワークシート〉

（3）視点

学びの場や掲示等、学習環境を整えたことは、自分に合った学習スタイルを選択し、試行錯誤しながら意欲的に活動するために有効であったか。